塩素ビスアンスロニル誘導体 AO-4 (V), AO-5 (VI), AO-6 (VII) を標品として，更に 13 種（うち 1 種は上記と同種で採集地が異る）の *Anaptychia* 属地衣のエーテル抽出物について薄層クロマトグラフィーによる検索を行った。この結果，*A. casarettiana, A. coralliphora* の色素含量は少く薄層上顕著なスポットを与えない。*A. lutescens* は AO-1 を微量含有する以外に 2 種の別種色素を少量含有することが判明した。残りの 10 種類即ち，*A. dendritica* var. *dendritica, A. dendritica* var. *dissecta, A. dendritica* var. *propagulifera, A. firmula, A. flabellata, A. hypochraea, A. obscurata, A. pandurata, A. rugulosa, A. subascendens* ではいずれも AO-1 を相当量含有することがわかった。又，上記の他の色素の含有量は Fig. 1 と Table 1 に示すとおりである。更に，AO-1-anthrone (III) 及び AO-2-anthrone (VIII) と思われるスポットを数種の地衣について確認しその含有量もかなりの量であることが判明した。

○地衣類思い出話 (3)（富樫　誠） Makoto Togashi: Miscellaneous notes on lichens or lichenological survey (3)

最近 *Usnea* 研究の面で問題となった件は *Usnea creberrima* Vain. の再発見である。事の起りは此の名の地衣が *Euusnea* 亜属に入れてあるにも不拘，そのタイプ標本を検査された朝比奈先生は此れが中空の中軸を持つ事で *Eumitria* 亜属に入るものでなければならず，又先生の *Eumitria* 類の標本にはこれと同定する様なものがないので，故安田篤氏が採集した仙台の東部太平洋海岸を捜せと云う事になり，昭和 40 年の 3 月と 5 月の 2 回，陸前・閖上浜一帯南北約 10 キロに亘る地帯を東北大薬学科升本教授の応援もあって大々的に採集し，*Eumitria* と考えられる地衣は根子スギ採集したが，多少タイプに似たものはあっても，タイプそっくりと云う標本はなかった。然し幸にしてヒマラヤ採集品中にタイプそっくりの標本が若干あったので一応ケリがついた（本誌 41 : 161, 1966）。然し，残た問題は先生が先に一応 *U. creberrima* に充てた標本を何と呼ぶかと云う件で先生を煩わしたが，これも大部分 *U. roseola* Vain. の一型に充当して方がついた。最初の命名者 Vainio の間違は兎も角，あの鋭い観察眼のある Motyka 迄 *Eumitria* 所属を見逃して居たことは不思議のことと云えよう。